

学校教育目標	◆人間性豊かな実践力のある生徒～たしかな学力 ゆたかな心情 たくましい身体～
目指す学校像	◆生徒一人ひとりが「来甲斐」「居甲斐」「やり甲斐」のある学校 ◆伝統の継承と新たな構築による信頼される学校
重点目標	1 学びの自律化と個別最適化、学びの探究化に向けた取組の推進 2 自己肯定感、自己有用感、豊かな情操、道徳心等の豊かな人間性の育成 3 連携・協働を目指したコミュニティスクールの推進 4 教育環境の整備と安心・安全な学校づくりの推進 5 ワークライフバランスの充実と常に学び続ける教師の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月10日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」(国語・数学)は概ね良好な結果である。 ○日頃の学習状況の様子から、どの教科でも課題に対し、真面目に取り組む姿勢が見られる。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」の項目が他の項目と比較して課題が見られる。 ○日頃の学習状況の様子から、意欲的に学習活動に取り組む生徒が多い中、自ら主体的に物事を解決する姿勢に課題が見られる。	学びの自律化・個別最適化・探究化  キャリア教育の充実	①1人1台のタブレット端末を効果的に活用し、課題に対し自力解決の場を設定するなど、生徒主体の授業を実践する。 ②スタディサプリの効果的な活用を実践し、生徒の学びの個別最適化、自律化、探究化を図る。	①多くの教員が生徒主体の授業に挑戦することができたか。 ②学校評価「授業の内容を理解」の肯定的な回答の割合を向上させる(生徒前年90%保護者前年73%)	①多くの教員がタブレット端末を活用し生徒の主体的な活動を促す学習課題を設定する等の努力がみられた。 ②学校評価「授業の内容を理解」の肯定的な回答の割合が生徒前年90%→92%保護者前年73%→89%に向上した。	B	デジタルと紙の双方のよさを教科ごとに分析し、タブレットをより効果的に活用する必要がある。やみくもに活用するだけでは不十分。生徒主体の授業についてはまだ講義調の一方通行授業も散見され、更なる研修を積む必要がある。
		自己肯定感・自己有用感の向上  迅速な組織対応及び誰一人取り残されない学びの場の提供	①本校の特色である「歌声の響く学校」を前面に掲げ、伝統ある学校行事を通じて愛校心を高め、生徒の帰属意識や所属意識を高める。②大宮北中憲章に基づく生徒の自主的・主体的な活動を一層促進し、生徒の自己有用感を育む。	①学校評価「楽しく学校生活を送る」(生徒)に対する肯定的な回答の割合を前年よりも向上させる(生徒前年93%保護者前年83%) ②いじめ対策委員会や生徒集会等を通じて出された生徒の意見を学校全体で具現化させる。	①指導主事を招聘し小・中一貫キャリア教育研修を実施することができたか。 ②CSCシートアンケートの肯定的な回答の割合を向上させる。	①指導主事を招聘し小・中一貫キャリア教育研修を一層深めることができた。 ②CSCシート6「将来必要となる力について考えよう」の全ての項目で肯定的な回答の割合が全学年で向上した。	A
2	<現状> ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見受けられる。 ○日頃の生活の様子から、人間関係のトラブルなどを抱えている生徒も少なくない。 <課題> ○いじめの撲滅と不登校生徒の減少に向けて、組織的・計画的な生徒指導・教育相談体制のさらなる充実が課題である。 ○不登校生徒に対して、個に応じた多様な学び場の提供を積極的に検討し、提案していく必要があり、誰一人取り残されない教育の実現が課題である。	自己肯定感・自己有用感の向上  迅速な組織対応及び誰一人取り残されない学びの場の提供	①本校の特色である「歌声の響く学校」を前面に掲げ、伝統ある学校行事を通じて愛校心を高め、生徒の帰属意識や所属意識を高める。②大宮北中憲章に基づく生徒の自主的・主体的な活動を一層促進し、生徒の自己有用感を育む。	①学校評価「楽しく学校生活を送る」(生徒)に対する肯定的な回答の割合を前年よりも向上させる(生徒前年93%保護者前年83%) ②いじめ対策委員会や生徒集会等を通じて出された生徒の意見を学校全体で具現化させる。	①学校評価「楽しく学校生活を送る」に対する肯定的な回答の割合が生徒前年93%→96%保護者前年83%→96%に向上した。 ②いじめ対策委員会や生徒集会等を通じて出された生徒の意見により挨拶運動とWeb目安箱を開始、若干の校則変更も行った。	A	大宮北中憲章の理念を受け継ぎ、生徒会や委員会を中心とした朝礼、校則の見直しを継続していく。生徒いじめ対策委員会には、挨拶運動の他にいじめの撲滅に向けたより具体的な提案を求め、より生徒の主体的な活動を促進する。
		保護者・地域への積極的な情報発信とコミスクの周知  地域貢献・地域協働活動の充実	①学校公開、保護者会、学校だより、学校HPに加えてアプリ(がくぷり)を活用し保護者への情報発信力を強化する ②民生児童委員連絡協議会を実施する。	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合を向上させる。(保護者前年83%) ②学校評価「コミスクの周知」の肯定的な回答の割合を向上させる(保護者前年25%)	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合が前年84%→95%に向上した。 ②学校評価(教職員)の生徒指導分野の肯定的な回答の割合が前年85%→74%に減少した。	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合が保護者前年83%→82%に減少した。 ②学校評価「コミスクの周知」の肯定的な回答の割合が保護者前年25%→38%に向上した。	B
3	<現状> ○学校に協力的な保護者及びPTA、そして本校生徒に温かい眼差しを向けくださる地域の方々に支えられ、学校運営ができています。 <課題> ○コロナ禍において、以前小学校や地域と協働で行ってきた学校地域協働活動等が中断されたものがある。地域に貢献し、地域に愛される生徒の育成を目指すことにより生徒の自己有用感を高める必要がある。	保護者・地域への積極的な情報発信とコミスクの周知  地域貢献・地域協働活動の充実	①学校公開、保護者会、学校だより、学校HPに加えてアプリ(がくぷり)を活用し保護者への情報発信力を強化する ②民生児童委員連絡協議会を実施する。	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合を向上させる。(保護者前年83%) ②学校評価「コミスクの周知」の肯定的な回答の割合を向上させる(保護者前年25%)	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合が前年85%→74%に減少した。	B	各種たよりの電子化を進めるにあたり、生徒保護者側の戸惑いがあった可能性がある。PTA、学校運営協議会に意見を頂戴しながら更なる電子化を促進する。また、学校運営委員会の議事内容はより積極的に広報する。
		施設・設備の安全管理及び円滑なリフレッシュ工事の実施  会計予算の適切な執行・処理	①全職員で定期的な安全点検を毎月1回行い、危険箇所の早期発見と修繕を徹底して行う。 ②体育館、武道場の改修工事に伴い部活動等の活動場所を確保し円滑に工事に移行する。	①学校予算の執行残を限りなくゼロに近づけることができたか。 ②学期に1回の監査を適切に実施し明朗な会計処理を実施することができたか。	①毎月安全点検と緊急性のある修繕・整備の完全実施をすることができたか。 ②体育館・武道場部活等の代替場所の確保ができたか。	①毎月安全点検を欠かさず実施し、緊急性のある修繕・整備の完全実施をすることができた。 ②部活等の代替場所を小学校の協力により完全に確保することができた。	A
4	<現状> ○自らのキャリア形成に役立てるため、積極的に自主研修に参加を希望している教員が多い。 ○特別休暇や年休を活用し子育てや介護との両立を適切に図っている職員が多い。 <課題> ○教育熱心なあまり退校時間の意識が薄れて、在校時間が長くなっている傾向がみられる。 ○校務のICT化及び紙の縮減については、まだまだ改善の余地がみられる。	ワークライフバランスの充実  学び続ける教師の育成	①校務のICT化や紙の縮減を通じて業務の一層の効率化を図るよう研修を行う。 ②管理職、主任等のリーダーシップにより計画的年休の取得を強く奨励する。	①学校評価「研修」における肯定的回答の割合を向上させる。(教職員前年76%) ②職員の年休取得率を向上させる。	①学校評価「研修」における肯定的回答の割合が教職員前年76%→81%に向上した。 ②職員の年休取得率が、12月中旬の時点で昨年末の年休取得率を超えた。	A	計画的年休の取得については引き続き奨励する。来年度はさらに在校時間の縮減について相互に声を掛け合う体制をつくるとともに、校務分掌等の均衡化に留意する。
		自己肯定感・自己有用感の向上  迅速な組織対応及び誰一人取り残されない学びの場の提供	①学校公開、保護者会、学校だより、学校HPに加えてアプリ(がくぷり)を活用し保護者への情報発信力を強化する ②民生児童委員連絡協議会を実施する。	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合を向上させる。(保護者前年83%) ②学校評価「コミスクの周知」の肯定的な回答の割合を向上させる(保護者前年25%)	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合が前年84%→95%に向上した。 ②学校評価(教職員)の生徒指導分野の肯定的な回答の割合が前年85%→74%に減少した。	①学校評価「学校情報の開示」の肯定的な回答の割合が保護者前年83%→82%に減少した。 ②学校評価「コミスクの周知」の肯定的な回答の割合が保護者前年25%→38%に向上した。	B

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

タブレット端末でスタディ・サプリー等を活用して、個に応じた自学自習ができるのは、大変学習効果があると思うので、一層の活用を子どもたちに促していくとよい。

大宮北中憲章の理念の下、生徒主体の活動を活性化させること、新たに時間を確保して教育相談面談を充実させることは、とても価値がある。今後は、日本語をまだ習得していない子どもたちの入学も増えてくる可能性がある。地域でもそういった子どもたちを支えていく方法を検討していきたい。

各種たよりの電子化を進めるにあたり、生徒保護者側の戸惑いがあった可能性がある。PTA、学校運営協議会に意見を頂戴しながら更なる電子化を促進する。また、学校運営委員会の議事内容はより積極的に広報する。

来年度は、B校舎の改修工事が始まるため、特別教室及びPTA活動場所の確保と生徒・職員の安全に配慮する。また、老朽化に伴う各種不具合等に迅速に対応する。

学校の働き方改革という視点に立ち、休日の地域行事に先生方を無理に動員させないよう各自治会では話をしている。その分、地域ボランティア等に生徒の派遣を一層検討してもらえるとありがたい。